

伊勢國  
薦野温泉

〔詞花和歌集十〕有馬の湯にまかりたりけるによめる

いざや又つゞきもしらぬ高嶺にて先くる人に都をぞ問ふ

〔類聚名物考地理三十五〕薦野湯こものゆ伊勢

此湯いまだ物に見えず伊勢新名所歌合可考

〔鹽尻四十三〕後の文月初六日御いとままばしなりて勢州菰野山の温湯にまかりし嶺の雲谷の

霧珍敷かの造化のおしめる景勝をたやすく見侍るも嬉しく空おそろし其程の事旅亭の徒然

に涼窓燈下筆に任せ後の紀念にもと爰に記し侍る

此温泉は養老の比沙門淨薫藥師善逝の靈告により神井を尋神祠を建て土地を起し痾を療

し性を保する水源を開けり川端神明淨薫塚今に在り

其后傳教大師小谷の靈地に精舎を營し冠峯山三岳寺と號し給へり覺信僧都をして住せし

め本尊瑠璃光如來は大師自彫刻の尊像也星移り物換り温泉も空しく絶古寺廢亡慶長中炎燒然

るに貞享四年丁卯官に請舊地新たにし温泉再びむかしにかへれり賢按後世取立の温泉ゆ

へ湯少しぬるきよし

〔駒井日記〕文祿二年後九月九日 一三位法印様勢州こもの湯江御湯治付而人足割符 一十

一日京々草津迄四十人 民法 一十二日草津々水口迄四十人 爲心 一十三日水口ヨリ勢

州こもの迄十五人藤玄丹羽勸介

十日 熊令啓上候但早道遣 一三位法印様大かみ様并御子様達彌御息災に御座候三位法印

様明日十一日より勢州こものへ御湯治被成候御氣色指當惡敷儀も無御座候爲御養生被爲人

候則路次人足以下念を入申付候然者上様御氣色御様子御報に可被仰下候恐々謹言

閏九月十日 益駒井 壽命庵